

平成30年度 京都市立安井小学校 学校教育目標

「輝く 安井の子の育成」

輝くとは、自ら内なるエネルギーを放出しながら光り輝くというイメージです。決して輝かされているのではなく、他の光を反射しているわけでもありません。

子どもが「輝く」状態とは、自分に自信をもって、主体的に自分の力を発揮している状態と考えています。「輝く」経験を重ねた子どもは、自ら人生の課題を見つけ、主体的に課題を克服しようとし、よりよい未来を切り拓こうとする子ども、すなわち「生きる力」が備わった子どもです。

安井小学校の子どもたちは、素直で真面目な児童が多く、目標が定まるとそれに向かって一生懸命頑張ることができる子どもたちです。その力を基盤に、主体的に学習を進める経験を繰り返すことで、『主体的に課題を見つけ、知識・技能を基に課題を解決していく力』を育てていきたいと考えています。

昨今の社会では、急速なグローバル化やAIの飛躍的な進化など絶え間ない技術革新により、将来が予測不能な世の中になってきています。そのような未来で、逞しく自分の人生を切り拓く子どもを育てるため、自分に自信をもって、主体的に自分の力を発揮する子どもを安井小学校教育で育てていきたいと考えています。

平成32年度より本格実施される新学習指導要領では、このような世の中で、社会と繋がりながらよりよく生きていく「生きる力」を育む内容に大きく変更されています。この「生きる力」はこれまでの「生きる力」に加えて、変動する社会に対応するため、「答えのない課題に対し、多様な他者と協働する中で、新たな考えを見いだしながら、自分なりの解決策を見いだし、実行していく力」と定義されています。そのために子どもに必要な「資質・能力」を学校教育課程の中で明らかにし、「何ができるようになるか」という明確なめあてを教職員一同で共有しながら学校教育を進めていきます。

安井小学校の6年間で子どもが輝く瞬間を何度も積み重ねることで、自分の知識と経験に自信をもって、自ら課題を解決していこうとする子どもを育てていきます。

学校教育目標

輝く

安井の子の育成

やさしく思いやりのある子

すすんで学習を進める子

いきいき元気な子

社会

学びに向かう力，人間性

地域・家庭との連携

主体的に関わろうとする意欲

何を理解し，何ができるか

知識，技能

理解し，出来ることをどう使うか

思考力，判断力，表現力

- ・一人一人の子どもを徹底的に大切にする
- ・社会に開かれた教育課程の実践
- ・保護者，地域と協力し，子どもを育む

めざす学校像

- ・子どもに対する愛情・思いやりを大切にする
- ・学校運営，教育の専門家としての自覚，自己研鑽する

めざす教職員像

豊かな心

㊦ さしく思いやりのある子

学校全体の道徳教育を進める中で，自他ともに大切にし，あいさつができる子ども。

道徳教育の充実

特別な教科 道徳の学習の推進
みそあじ

確かな学力

㊧ すんで学習を進めるする子

社会に開かれた教育課程の中で，基礎基本の徹底を土台に，自ら課題を見つけ，主体的に課題解決に取り組む子ども。

主体的・対話的で深い学びの過程の実現

健やかな体

㊨ きいき元気な子

すすんで運動し，自分の健康や安全について主体的に考えられる子ども。

保健・安全教育の推進

運動・スポーツの実践体力向上
早寝・早起き・朝ごはん

人権教育

- ・命を大切にし，他人を思いやる心の育成
- ・いじめを絶対許さない集団作り
- ・道徳的な思考力・判断力の育成

学力向上

- ・社会に開かれた教育課程
- ・家庭学習の充実
- ・校内研究の推進
- 社会科・国語科・外国語活動の推進

生徒指導

- ・児童理解，受容と共感で子どもとのかかわりを深める
- ・規範意識の育成
- ・行事で子どもを育てる